

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大谷場中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ICTを適切に活用し、生徒が教科の特性に応じた知識・技能を効果的に身に付けられるよう授業改善を図る。 授業において、生徒が実際に作業したり話し合ったりする活動を積極的に取り入れ、各教科に必要な知識・技能の確実な定着を図る。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 各教科における言語活動の充実を図り、生徒が物事を多面的・多角的に捉えて判断し、自分の考えを適切に表現できる力を育成する。 課題を適切に設定し、生徒が主体的に学習に取り組み、課題を解決する力を養う。

①	今年度の課題と学力向上策		
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】	
知識・技能	<p>【学習上の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語「漢字」「読むこと」 数学「用語の意味」 理科「光や音」 <p>【指導上の課題】</p> <p>各教科における見方・考え方を働かせ、生徒主体で知識・技能を習得できる授業を展開させること。</p>	⇒	<p>授業の最初に前時の学習を振り返り、その内容を生かして本時の学習活動につなげる【毎時間】。</p> <p>児童生徒による学び合い(協働学習)や、一人一人の能力・適性に応じた学習活動(個別学習)を取り入れた授業を、ICTを効果的に活用しながら展開する。</p> <p>生徒が「今日理解できたこと/疑問に思ったこと」を簡潔に記録する振り返りの時間を設定し、教師が回収・フィードバックして次の授業に活かす。【各単元1回以上】</p>
思考・判断・表現	<p>【学習上の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語…場面と描写を開係付けて解釈する場面 理科…「地球」「エネルギー」の知識を活用する場面 <p>【指導上の課題】</p> <p>課題の解決に向けて、生徒が主体的に物事を判断したり表現したりする授業を展開させること。</p>	⇒	<p>教科特有の見方・考え方を働かせながら、本時の課題を生徒主体で解決する授業を行う。【毎時間】</p> <p>「課題発見→自力解決→生徒同士での学び合い→まとめ」のサイクルで主体的・対話的で深い学びにつながる授業を展開し、生徒が初めての問題にも対応できる資質・能力を育成する。【各単元1回以上】</p>

⑤	評価(※)	調査結果	学力向上策の実施状況
知識・技能	A		ICTの効果的な活用について校内研修を実施するとともに、職員同士の授業公開等を通して、基礎学力向上を目指した授業改善に取り組んだ。さいたま市学習状況調査において、市平均と比較して高い水準を維持している。
思考・判断・表現	A		教科固有の見方・考え方を働かせる授業の実現に向け、校内研修等を通して日々授業改善に取り組んだ。さいたま市学習状況調査において、市平均と比較して高い水準を維持している。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能		市平均・全国平均と比べて、国語科、数学科ともに高い結果であった。領域別に比較しても、結果は良好であった。国語科では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、数学科では、「データの活用」や「関数」の領域において、特に良好な結果が得られた。一方、数学科の「数と式」の素数の意味や「図形」の平行四辺形の証明に課題がみられた。
思考・判断・表現		市平均・全国平均と比べて、国語科、数学科ともに高い結果であった。領域別に比較しても、結果は良好であった。国語科では、「書くこと」、数学科では、「数と式」の領域において、特に良好な結果が得られた。一方、国語科の「話すこと・聞くこと」に課題がみられた。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能		<ul style="list-style-type: none"> 市平均と比べて、全教科を通して良好な結果であった。 社会科では、「日本の地域的特色」に関する学習内容に、一部課題が見られた。 理科では、「天気」に関する学習内容に、一部課題が見られた。 数学では「連立方程式」に、一部課題が見られた。
思考・判断・表現		<ul style="list-style-type: none"> 市平均と比べて、全教科を通して良好な結果であった。 国語においては、資料を使って自分の考えを表現する問題に、一部課題が見られた。 理科においては、化学反応の知識を活用する場面に、一部課題が見られた。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	A	概ね実施ができてきている状況である。引き続き校内研修等を通して、学習に効果的な指導方法を研究していく。	左記のとおり継続していく。【さいたま市学習状況調査平均正答率を、市平均正答率以上となるようにする】
思考・判断・表現	B	教科会等を通して、各教科での見方・考え方を働かせることのできる指導方法・実践事例を共有していく。また、校内研修を適切に活用し、主体的・対話的で深い学びにつながる指導法を研究していく。	左記のとおり継続していく。【さいたま市学習状況調査平均正答率を、市平均正答率以上となるようにする】

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)